

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2025 年「8・15 日韓聖公会共同宣言」

—「平和を造る人々は幸いである」(マタイ 5:9) —
—「剣を打ち直して鋤とし」(イザヤ 2:4、ミカ 4:3) —

主にある愛する皆さま

今年は日本の敗戦と韓国の光復から 80 周年を迎えます。この意義深い年に当たり、私たちは神様が人類にお与えになった和解と平和の使命を改めて心に刻みます。

歴史を悔い改めて

日本聖公会は過去に朝鮮半島に対して行なった、植民地支配の罪を深く悔い改めます。私たちの先祖が朝鮮半島のみなさんに負わせた傷と痛み、またそれによって起こった南北分断を忘れることなく、主の赦しの中で真の和解を求めます。

「互いに親切で憐み深い者となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」(エフェソ 4:32) のみ言葉のように、私たち両聖公会は赦しと愛をもって新しい関係を築いていきます。

現在を省みて

いま世界は戦争と紛争によって苦しんでいます。「ガザでのジェノサイド」、「終わりの見えないウクライナ戦争」、そしてあらゆる地域で紛争が起こっています。このような時だからこそ、キリスト者は「平和を造る者」としての使命を思い起こさなければなりません。

日本は戦後、神様の恵みによって平和憲法を制定し、戦争を放棄し、あらゆる武力を持たずして平和を追求する国となりました。これは「剣を打ち直して鋤とし」という神さまのみ心を実現する貴い賜物でした。私たちはこの平和の精神を大切に守り、さらに発展させていく責任があります。

朝鮮半島は依然として分断の痛みの中にありますが、神様は和解と一致のビジョンを私たちにお与えになりました。分裂した地に平和が実現されることこそが、主のみ心であると信じます

日韓両聖公会は、40 年間以上にわたる「まごころの交わり」を通して、互いを理解し、愛することを学んできました。特に両聖公会の青年たちが、長い交流の経験を通してキリストにあって一つとなっている姿は、神様がとお与えくださった大きな恵みです。また多くの大韓聖公会出身の聖職者が日本聖公会の牧会の現場で宣教協働者としてご奉仕する姿はこれまでの両聖公会の交わりの結実です。

未来に向かって約束します

「神は、キリストをとおして私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに授けてくださいました。」(Ⅱコリント 5:18) とのみ言葉に従い、私たちは次のように実践することを約束します。

愛の実践：互いのために祈り、理解しようと努め、神様の愛をもって互いに仕え合います。

真理の追求：歴史の真実から目を逸らすことなく、憎しみよりも愛で、断罪よりも赦しで応答していきます。

平和の証し：日本の平和憲法を支持し、軍事的対決よりも、対話と協力による平和構築に参加していきます。

統一への祈り：分断された朝鮮半島が、神さまの恵みによって和解し統一されることを切に祈り、この過程において日韓両聖公会が平和の同伴者となるよう努めていきます。

希望の分かち合い：若い世代や「女性」たちがキリストにあって一つとなる喜びを体験できるよう、交流とまごころの交わりを続けていきます。

主の召しに応えて

「剣を鋤に、槍を鎌に打ち直す」その日を望みつつ、私たちは憎しみの壁を超えて、愛の橋を架ける働きに参加します。

80 年前の痛みの歴史を踏まえ、いま私たちはキリストの愛の中で真の家族となりました。いま私たちの友情と信頼が両国と朝鮮半島の平和統一、そして東アジアの和解にささやかな礎となることを祈ります。

「兄弟が共に住むことは、何という幸せ、何という麗しさ。」(詩編 133:1)

主が私たちに委ねられた和解の使命を感謝して受け、愛と平和の福音を証しつつ歩んでまいります。

2025 年 8 月 15 日

大韓聖公会議長主教 主教 オネシモ 朴 東信

日本聖公会首座主教 主教 ダビデ 上原榮正

日韓両聖公会 主教会